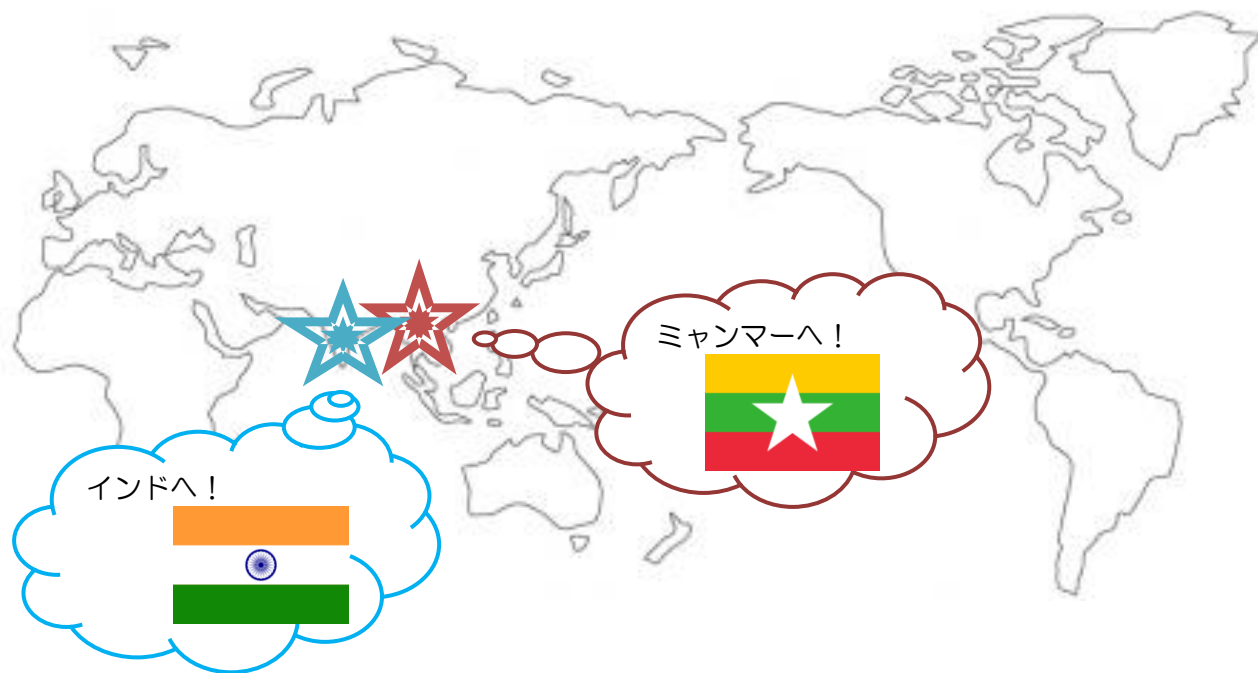


ボランティア 世界へ！！



学校の夏休みを利用して、約3週間インドとミャンマーへ医療ボランティアに行ってきました。インドではマザーハウスで、ミャンマーでは日本人が運営している病院で活動をしました。私は、将来途上国で活動することを目標にしています。自由な時間が多い学生の中に、少しでも「開発途上国で働くとはどういう感じなのか」というイメージを掴みたいと思いボランティアに参加することを決めました。

2年生（65回生）山下恵奈

★ インドにて

マザーテレサの施設は複数あり、その対象は幼児から高齢者までさまざまです。身体障害や精神疾患をもつ方や虐待を受けた子供たちなど、施設によってさまざまな方たちが入所しています。活動先では、洗濯や掃除のほか、排泄介助や食事介助、理学療法士が行うリハビリの介助などを行いました。マザーハウスには世界中から様々な年代層の人が訪れてきていて、異なった国の人たちと協力して活動できたこともとても勉強になりました。



カメラを向けると手を振って
こたえてくれました



コルカター大きいマーケット



マザーテレサの施設のひとつであるシシュバハン（孤児の家）に見学に行きました。施設内にはこどもたちが楽しめるようにおもちゃや絵本がたくさんあって、天井には色とりどりの風船が浮いていたり、花柄のカーテンを使用していたりと、内装にもこだわっていました。



マザーテレサのお墓。8月26日はマザーテレサの誕生日で、この日は早朝から盛大なミサが行われました。



マザーハウスに向かうシスターたち。



マザーテレサの施設、シャンティダン（女性の身体・精神障害者の家）へボランティアに行きました。ほかの国からきたボランティアの人たちとも、一緒に仕事をしているうちに仲良くなりました。



マザーテレサの施設、カリガート（死を待つ人の家）。ここでは、感染症の方に薬を塗ったり、オイルを使って腕や足のマッサージを行ったりしました。また食事介助や排泄介助を行ったりもしました。



ホームステイ先で民族衣装のサリーを着させてもらいました。



ガンジス川。体を洗ったり泳いでいる人もたくさんいました。



ミャンマーにて

病棟でほかの看護師と一緒に患者さんの血圧や脈拍などを測定をしたり、指さし会話帳やジェスチャーを交えながら体調を伺ったりしました。また、実際の手術の様子を見学したり、機械出しを経験させていただきました。



病棟の様子。カーテンのようなベッドとベッドの間を仕切るものはなく、個室は2部屋しかありません。ミャンマーの病院はどこもそうらしいのですが、布団や食事は病院からは支給されないのですべて患者さんの家族が準備をします。



病棟のベッドが患者さんでうまってしまうと、動ける方から外の病棟に移動してもらいます。嫌な顔一つせず了解している様子に驚きました。



大きな病院へ患者さんを送るときに使用されます。



手術室。物品は少ないですが、必要最低限の設備は整っています。



外来の様子。日本人の医師とミャンマー人の医師が相談しながら診察を行っています。



手術中。



活動中に会った方たち。ミャンマーで会ったほかのボランティアの方は皆現役の医師や看護師ばかりで初めは不安でしたが、疾患やそれに対する処置・手術のことなどを優しく丁寧に教えてくださいました。



全体を通しての感想

インドとミャンマーでの経験を通して、目的のひとつである開発途上国で働くことのイメージを掴むことができました。また様々な国の人たちと出会い、一緒に活動できたことで、より開発途上国で働きたいという気持ちは高まりました。次はボランティアの学生としてではなく、一人前の看護師として訪れたいなと思います。

